

# 日本歌曲における準母音的子音の活用 1

《野薔薇》を中心に

林 満理子

The Use of “QUASI-VOWEL” Consonant in Japanese Art Song

HAYASHI Mariko

(Received January 6, 2016)

キーワード：声楽、歌唱、子音

## はじめに

本稿は「準母音的子音における発音の特徴 山田耕筰の考える日本歌曲の歌唱実践に向けて」（林 2016）において導き出した準母音的子音の発音上の特徴を、日本歌曲の歌唱指導に活用するための試案である。

準母音的子音とは、山田耕筰の考える「長時の発聲に堪へ、しかも變質しない音」である。1950年に出版された『山田耕筰名歌曲全集』第1巻の巻末に書かれている「日本歌曲とその基本的な演唱・演奏法に就いて」の中で山田耕筰が「言葉の組立」について述べており、子音には「繼續絶対不能」な純子音と、「長時の発聲に堪へ、しかも變質しない音」の準母音的子音があると言っている。筆者は前述の論文において、山田耕筰の言う準母音的子音には発音上「摩擦音系」「鼻音系」「側面音系」の3種類があり、それぞれの発音上の特徴ゆえに「長時の発聲に堪へ、しかも變質しない音」が可能となっていることを明らかにした。

本稿では山田耕筰作曲の《野薔薇》を例にして指導法を提示したい。

## 1. 《野薔薇》について

1917年（大正6年）8月25日、山田耕筰は親友の三木露風から葉書を受け取った。そこに記されていた詩を一読すると山田耕筰の口からは何の不思議もなく1つの節が流れ出て、そしてその夜に歌曲《野薔薇》が完成した。山田耕筰は《野薔薇》の詩を「感動の所産」と述べている。以下に《野薔薇》の詩をみてみたい。

野ばら  
野ばら  
蝦夷地ののばら  
人こそ知らね  
あふれさく  
いろもうるはし  
野のうばら

野ばら  
野ばら  
かしこきのばら  
神の聖旨を  
あやまたぬ  
あらの  
曠野の花に  
知る教。

《野薔薇》は二節の有節形式で書かれており、まず速度の指示とともに「極めてゆるく、唱ふやうに」とある（楽譜は巻末参照）。伴奏への指示には*sotto voce*、更に*legato amabile*, *dolcissimo*とあり、歌い出しでは*sempre legatissimo*と指示されている。《野薔薇》は、途中の*mf*と*f*の2カ所を除いて*p*と*pp*で演奏するよう指示があり、*crescendo*も*esitando*によって抑えられた表現を求められており、三木露風の受けた静寂の中の感動が終始表現されるよう作られている。楽譜上には更にテヌートの指示が11カ所あり、これは*sempre legatissimo*に対する作曲者のこだわりと捉えることができる。*p*と*pp*の中で*sempre legatissimo*で演奏するのはかなり難しいので、旋律が切れることなく滑らかに演奏されるためには子音の発音にかなりの配慮が必要となる。

## 2. 《野薔薇》における純子音と準母音的子音

《野薔薇》の詩について純子音と準母音的子音を明確にするためローマ字表記にし、純子音には下線、準母音的子音には四角の囲みを付して区別した<sup>1)</sup>。

Nobara  
Nobara  
 Ezochi no nobara  
 Hitokoso shirane  
 Ahuresaku  
 Iro no uruwashi  
No no ubara

Nobara  
Nobara  
 Kashikoki nobara  
 Kami no mimule (w)o  
 Ayamatanu  
 Arano no haha ni  
 Shiru oshie

このように子音を分析してみると、純子音は28箇所、準母音的子音は36箇所となり、準母音的子音のほうが多いことが分かる。

## 3. 準母音的子音に着目した《野薔薇》の歌唱法

以上の結果と作曲者による歌唱と伴奏の指示を踏まえて、準母音的子音に焦点を当てた《野薔薇》の歌唱法を提示したい。

「Nobara」の「N」を時間をかけて発音することにより歌いだしが滑らかになる。「Ezochi」の「zo」の部分は音が跳躍しており、*sempre legatissimo*が崩れやすいポイントであるが、子音の「z」を時間をかけて発音することにより回避できると考えられる。「chi」の「ch」は破擦音であるため*legato*が崩れやすく、また高音であるため発音がし難い。加えて*esitando*の指示があるため難しいポイントであるが、子音「ch」を時間をかけて発音し準母音的子音の扱いにすることで、*legato*が崩れやすい破擦音でも*legato*を保つことができる。

「Hitokoso shirane」の「Hi」の「H」の子音を時間をかけて発音することにより*pp*に応えつつ、発音を明瞭にすることができる。また、「Hitokoso」と「shirane」は高音であるにもかかわらず*esitando*の指示があり難しいポイントであるが、子音を時間をかけて発音することで、無声の摩擦音Sを発音する際の息づかいにより、ひっそりと咲いている様子を*esitando*の指示に応えつつ表現することができる。「Ahuresaku」の「h」は時間をかけて発音し準母音的子音の扱いにすることで発音が明瞭になり、無声の摩擦音Hを発音す

る際の息づかいにより、あふれるほど咲いている野薔薇の様子を表現できる。「saku」の「s」は時間をかけて発音することで*p*と*esitando*の指示に応えつつ発音を明瞭にでき、無声の摩擦音Sを発音する際の息づかいによってそこに感動があることを表現できる。「Iro mo uruwashi」の「mo」と「wa」は時間をかけて発音し準母音的子音として扱うことで、*legato*と言葉を明瞭に発音することが保たれる。「shi」も時間をかけて発音し準母音的扱いにすることで、音の跳躍によって崩れやすい*legato*を保つことができるばかりではなく、ひっそり咲いている佇まいの中に色までも美しい様子とそこに感動があることが、「sh」を発音する際の息づかいによって表現できる。

一節の最後「Ezochi no」は、高音での発音のし難さに加えて*rit.molt*の指示があるが、「ch」と「n」を時間をかけて発音し準母音的子音の扱いにすることで、言葉を明瞭に発音でき*rit.molt*の要求に応えることができる。

二節目の「Kashikoki」と「Kami」は無声子音で破裂音のKの子音が多用され、音が跳躍しており*legato*が崩れやすい難しいポイントであるが、「sh」と「m」を時間をかけて発音することにより*legato*を崩すことなく音の跳躍が可能となる。「mimune」も「m」と「n」の子音を時間をかけて発音し準母音的子音として扱うことにより、高音での発音が*legato*になり、また時間をかけて発音される子音のMとNによって強調される言葉の抑揚が神への敬虔な想いを表現しやすくしている。「Arano no hana ni」の「ni」はイの母音、音の跳躍、高音が充てられているという難しい条件のそろったポイントであるが、Nの子音を時間をかけて発音することで、*legato*が崩れることを回避できる。次の「Shiru oshie」も2か所の「sh」を時間をかけて発音することにより、無声の摩擦音Sによって言葉の抑揚が強調され、また息づかいから自然の美しさに感動した様子と、神への尊敬の念が表現できる。

二節目最後の「Kashikoki」も破裂音Kの子音の多用に*pp*の指示が加わり、より難しくなっているが、「sh」を時間をかけて発音し準母音的子音の扱いにすることで、*pp*のまま音の跳躍を*legato*で演奏することができると言える。

山田耕筰の考える準母音的子音を演奏に取り入れることは、演奏全体の発音を明瞭にする効果と*legato*を保つ効果が大きいと言える。高音での発音が一歩不鮮明になりがちな場合においても、時間をかけて発音される準母音的子音によって子音を長い時間を使って発音することができるため言葉が伝わりやすくなる。また*esitando*のように抑えた表現を求められた中でも、時間をかけて発音される準母音的子音によって余計なアクセントを避けつつ発音を明瞭にすることができる。音が跳躍し*legato*が崩れやすい場合でも、時間をかけて発音される準母音的子音によって言葉を十分に繋げることができるため*legato*を崩すことなく音の跳躍を滑らかに演奏することができる。

また、この発音の明瞭化と*legato*の保持という2つの効果だけではなく、準母音的子音を演奏に取り入れることで発音する際の息の出し方に様々な変化をもたらすことができる。《野薔薇》の中では、野薔薇があふれるほど咲いている様子や感動している様子、ひっそりと美しく咲いている様子など、摩擦音を発音する際の息の出し方によって言葉の持つ様々な意味を強調できる効果もあることが分かった。

#### 4. 日本歌曲の歌唱指導（《野薔薇》指導のポイント）

山田耕筰は《野薔薇》において終始*sempre legato*を要求しているが、*legato*の意味をいま一度ここで見てみたい。『ニューグローヴ世界音楽大事典』によると下記のように説明されている。

（「結合された」の意）響きの中断が認められず、しかも通例特別な強勢もなく、滑らかに連結されることを意味する語（スタッカートの反対語）。記譜上、古楽ではこの効果はリガトゥラで表され、時代が下がると、滑らかに奏されるべき音符に弧線すなわちスラーを付けることで示されるようになった。また、記譜上で示されていない場合でも、これと同じ効果が意図されている場合や、望ましい場合もある。

「響きの中断が認められない、また特別な強勢もなく、滑らかに連結されなければならない」とあるが、歌唱では歌詞があるため、旋律の*legato*を保ちながら歌詞も伝わるような工夫が必要である。歌詞を伝えようとして力んでしまう場合や、音が跳躍している場合に、余計なアクセントが付いてしまわないように、ア

クセントを付けずに*legato*で発音する方法を獲得せねばならない。そのためには、準母音的子音を活用した練習方法が有効であると考えられる。

この練習方法は以下の①から③までを順番に積み上げていくものである。

①歌詞のリズム読み

まずは歌詞を音程を付けずに下記のようにリズム読みをする。

譜例 1

No- ba- ra No- ba- ra E-zo - chi no no- ba - ra -  
 Hi-to - ko-so shi- ra- ne A- hu- re- sa-ku  
 I- ro - mo u-ru- wa- shi No no u-ba - ra<sup>2)</sup>  
 E - zo - chi no no - ba - ra-

四角で囲った準母音的子音を時間をかけて発音しながら次のブレスまで息が途切れないように持続させる。これはゆっくりできるほど良い。そして準母音的子音から母音へ移行する時に歌唱時と同じように響きが変わらないように気を付ける。なお、この際に気を付けることは抑揚を付けないということである。お経を読むように息をしっかりと流し、一本調子で読む。また、歌唱時と同じような口の開け方で響きのある声で読み、ブレスは歌唱時と同じ所を取る、歌詞はアルファベットで読むことを意識する。

準母音的子音を時間をかけて発音するリズム読みによって、発音の際の力加減や母音の響きが統一され、息の流し方を身体で覚えつつ、また耳では*legato*を実感できると考えられる。これらが完全に定着すれば、歌唱時の*sempre legato*の実現にかなり有効である。

②跳躍部分での準母音的子音の活用

次は音程を付けて歌うのだが、特に音程が跳躍しているところを取りあげて練習する。音の跳躍によって*legato*が崩れることが懸念される個所は、「蝦夷地の」「人こそ」「色も」「かしこき」「神の」「荒野の」の6か所であるが、この部分には下記のように全て同じ旋律があてられている。

譜例 2

音の跳躍とそこにあてられた言葉の発音を*sempre legatissimo*で行うのは大変難しいと考えられるため、こ

ここで準母音的子音を活用する。特に「蝦夷地の」「かしこき」「神の」は跳躍している音の間に準母音的子音があるため大変有効的である。

「蝦夷地の」の部分为例として挙げてみる。下記のように音が跳躍している部分をまずは母音のみで歌い、音の変化と身体感覚に慣れる。BからEsへかけての跳躍を何度も繰り返し歌ってみる。

譜例 3

母音の響きを変えないよう歌うことに気を付け、何度も繰り返す際に一息で歌うということと、2音間で姿勢を変えないことに注意をする。一息で練習している時に1回目より2回目、2回目より3回目というふうに音の跳躍や息のスピード、母音の移行に身体が慣れて、また声も整いムラがなくなってくるはずである。その感覚を身体に覚えさせることが大切である。慣れてきたらテンポを徐々に速くする。跳躍部分に準母音的子音を含んでいない「人こそ」「色も」「荒野の」においては、この母音のみの跳躍の練習だけでもかなり滑らかに歌うことができるようになる。

そして次に子音も入れて歌う。「えぞ ezo」の母音の響きを変えないようにという上記のポイントに加えて、Esの音で「ぞ zo」を発音する際に準母音的子音である「z」の子音をなるべく長く発音する。はじめはゆっくりと、慣れてきたところで徐々に速くしていく。

譜例 4

このような準母音的子音を時間をかけて発音する練習方法は、長く発音される子音によって息の流れがつくられるため、跳躍においても*sempre legatissimo*を実現するために有効であると考えられる。

跳躍の間に準母音的子音が入っている「かしこき」「神の」についても同じような方法を適用できる。跳躍の間に準母音的子音が入っていない「人こそ」「色も」「荒野の」に関しても、譜例3のように母音のみでの方法で行うことで、*legato*と母音の響きを保つことができる。

### ③高音部分での準母音的子音の活用

《野薔薇》において難しいのは高音部分での発音にもある。高音を歌う際にはある程度、口を開けることが必要であるが、開けすぎると発音が不明瞭になる危険がある。そこで準母音的子音の活用を提案したい。具体的な部分は「蝦夷地の 野ばら」の「chino No」、「人こそ知らね」の「koso shirane」、「かしこき 野ばら」の「shikoki No」、「神の みむね」の「no mimune」の5箇所である。この5箇所には下記のように同じ音程が充てられている。

譜例 5

この部分は声の変り目に音が集中しており歌いにくいと感じる部分である。ここで準母音的子音を活用することにより、より時間を長くかけて発音することが息を滑らかに流し、歌いにくさの緩和につながると考えられる。準母音的子音がいくつか含まれる「蝦夷地の 野ばら」の「chino No」、「人こそ知らね」の「koso shirane、「神の みむね」の「no mimune)については、準母音的子音を時間をかけて発音することにより歌いやすくなり、なおかつ発音が明瞭になることが予想されるが、難しいのは下記の「かしこ

き 野ばら」の「shikoki No」である。この部分には*legato*が崩れやすい破裂音のKが2つ続いているため難しい箇所である。しかし「s h」と「N」が準母音的子音であるため、「s h」と「N」を時間をかけて発音することで息の流れができる。その流れに沿うように2つの「k」が発音されれば、子音のKから母音へ移行する際に*legato*を崩すことなく歌唱が可能となる。

譜例 6

Ka - shi - (ko - ki) No - ba - ra -

## おわりに

独唱や合唱において、言葉が聴こえにくい場合に「子音を立てる」ということをするが、この際にアクセントを付けるように強調することが多いため*legato*が崩れてしまうことがある。また、音が跳躍する時には、2音間の響きが変わってしまったり、跳躍後の音にアクセントがついてしまったり、*legato*が崩れやすくなる。このような時に有効なのが子音を準母音的子音と捉えて発音することである。準母音的子音は「長時の發聲に堪へ、しかも變質しない音」であるため、子音を強調したい時には時間を長くかけて発音することが可能であり、また*legato*の実現へ向けて有効的な子音であるからである。《野薔薇》に限らず、山田耕筰の作曲した他の日本歌曲でも有効である。今後は他の作品でも分析を進め、指導法に繋げたいと考えている。

## 注

- 1) このローマ字表記は「準母音的子音における発音の特徴 山田耕筰の考える日本歌曲の歌唱実践に向けて」（林 2016）において導き出されたものである。
- 2) 「野の」の「の」は助詞であるため、「野」の「N」だけを準母音的子音にし、「No no ubara」と発音する。

## 参考文献

- 林満理子：準母音的子音における発音の特徴 山田耕筰の考える日本歌曲の実践に向けて，山口大学教育学部研究論叢第65巻，pp. 263-270，2016.
- 山田耕筰：山田耕筰名歌曲全集 第1巻，日本放送出版協会，1950.
- 山田耕筰：山田耕筰作品全集第5巻（独唱曲1）後藤暢子編集・校訂，春秋社，1989.
- ROBERT DONINGTON：レガート *legato*，ニューグローヴ世界音楽大事典 第20巻，訳者不明，講談社，p. 157，1995.

## 楽譜資料

- 山田耕筰：《野薔薇》『山田耕筰名歌曲全集 第1巻』，日本放送出版協会，pp. 34-35，1950.

[楽譜資料]

《野薔薇》楽譜（『山田耕筰名歌曲全集 第1巻』日本放送出版協会より）

# 野 薔 薇

詩  
三 木 露 風

極めてゆるく・唱ふやうに  
[ M.M. ♩ = 54-63 ]

KÔSÛAK YAMADA

*sotto voce*

*legato amabile, dolcissimo*  
*pp*

*sempre legatissimo*  
*pp* *p* *p* *esitando*

一のばら、のばら、えぞちののばら  
二ノバラ、ノバラ、カシコキ、ノバ

*espress. pp sempre* *esitando*

*a tempo* *pp* *esitando* *mf*

ら、 - ひと こそし ら - ね、 - あ  
 ラ、 - カミ ハ、ミム ネー ラ、 - ア

*a tempo* *pp* *esitando*

*esitando* *p* *cresc. molto* *f* *lungimo* *p* *dim. e rall.*

ふ れ、 - さく、 いろ も、うる は - し、 - のの、うば - -  
 ヤ マ - タヌ、 アラ ノ、ハ、ナ カ - ニ、 - シル、ヲシ - -

*p* *esitando* *p* *cresc. molto* *f* *colla voce* *p*

*a tempo* *pp* *rit. molto* 1. 2.

ら、 - えぞ ちの、のば - ら、 -  
 、 - カシ コキ、ノ パー ラ、 -

*a tempo* *pp* *rit. molto* *ppp*